

【専門分野】

科目名	総合看護技術演習	講師名	専任教員	学 年	3	履 修 期	第1学期
単 位	1単位						
時間数	30時間						
講師実務経験	看護師としての臨床経験あり。						
授業概要	看護倫理及び医療安全を踏まえ、エビデンスに基づいた状況対応能力を高める。						
授業科目目標	1. 看護場面での倫理や医療安全をふまえながら、臨床判断能力を習得できる。						
授業計画	<p>1回：看護場面での倫理</p> <p>1) 倫理的視点に基づいた対象の理解と判断</p> <p>2) 相手を尊重した行動</p> <p>3) 人間の尊厳や価値観、信念に沿った援助</p> <p>2回：点滴静脈内注射、輸液療法中の患者における危険予測と対応</p> <p>1) 点滴静脈内注射実施における危険予測と対応</p> <p>2) 輸液ポンプ使用中の危険予測とアラーム対応</p> <p>3回：一定の時間制限の中で根拠に基づいた安全な点滴静脈内注射の実施（閉鎖回路）</p> <p>4～5回：援助の理論的根拠の追求①</p> <p>1) 根拠に基づいた看護を行う上で必要となる知識・技術の明確化（2事例）</p> <p>(1) 対象の理解（疾患、治療、発達段階）(2) 看護援助の必要性</p> <p>(3) 援助方法の選択 (4) 考えるべきリスクと留意</p> <p>6～9回：援助の理論的根拠の追求②</p> <p>1) 根拠に基づいた看護を行う上で必要となる知識・技術の明確化（4事例）</p> <p>(1) 対象の理解（疾患、治療、発達段階）(2) 看護援助の必要性</p> <p>(3) 援助方法の選択 (4) 考えるべきリスクと留意</p> <p>10回：輸液療法中の患者へのより良い対応（安全安楽・倫理的視点）の追求</p> <p>11回：危機的状況の患者へのより良い対応（安全安楽・倫理的視点）の追求</p> <p>12～13回：臨床でおこりうる状況下での多重課題への対応と安全な業務遂行の実施（4事例）</p> <p>1) 優先順位の判断 2) 個人を尊重した対応</p> <p>3) 原理原則に基づいた看護技術の提供 4) 安全への配慮</p> <p>5) 危険の予測に基づく判断・行動 6) 冷静な対応と的確な依頼</p> <p>7) 段取り（業務調整、反応の予測）</p> <p>14回：多重課題への対応の客観的評価</p> <p>15回：終了試験 まとめ</p>						講義
							講義
							演習
							演習
							演習
							演習
							シミュレーション学習
							講義
評価方法	課題レポート（15%）、筆記試験（85%）						
テキスト	今まで使用したテキストを参考にすること						
学生へのメッセージ	この科目は、卒業前での臨床実践につながる大切な科目である。臨地実習で学んだ知識と実践を総動員させ、対象により快適で安全な援助を臨地的判断のもと実施する。援助の実施前には、文献検索を丁寧に積み、クリティークしながら根拠に基づいた援助の実施を計画しましょう。そして、人間の尊厳や価値についても、よく再検討しながら実施しましょう。授業の進め方においては、グループ編成し、事例に応じた援助をグループごとに計画・実施していく。 【関連科目】 全科目						